

## 『イエスが愛された弟子』は誰か

2020. 7. 19. (2020. 10. 20最終校正)

ホン・ソンピル

洪性弼 (伊香保中央教会牧師(群馬県))

<http://japan.ikahochurch.com>

[ikahochurch@gmail.com](mailto:ikahochurch@gmail.com)

1. 「イエスが愛された弟子」特定の意義
2. 四福音書に登場した使徒
  - (1) 各福音書ごとのまとめ
  - (2) 使徒の名前のまとめ
3. 『BD』の登場場面と位置づけ
  - (1) 『BD』登場場面
  - (2) 『BD』登場場面に基づく位置づけ
4. 『BD』に対する既存の主張の検討
  - (1) 『BD』が女性であるとの主張の検討
  - (2) 『BD』が十二使徒以外の人物であるとの主張の検討
  - (3) 『BD』がペテロ又はイスカリオテのユダであるとの主張の検討
  - (4) 『BD』が使徒ヨハネであるとの主張の検討
  - (5) 『BD』が理想的な弟子の姿であるとの主張の検討
5. 『BD』と他の使徒たちの登場頻度の比較
6. 『BD』と推定される人物の検討
  - (1) 予想人物の抽出
  - (2) 注目の理由
7. 残りの疑問と仮説
  - (1) 第五場面での二人の弟子問題
  - (2) 結びの『BD』と『私たち』の関係
  - (3) 疑問解決のための3つの仮定
  - (4) 仮定に基づく第1の仮説
  - (5) 第1の仮説を踏まえた第2の仮説
8. 結論

### 1. 「イエスが愛された弟子」の特定の意義

「これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。」（ヨハネの福音書 21 : 24)

『イエスが愛された弟子：以下、BD : The beloved disciple』はヨハネの福音書の登場人物にとどまらず、これを証言して記録した弟子が『BD』自身であると聖書は記録する。

したがって、人物を特定することは、単に人物を明らかにすることにとどまらず、ヨハネの福音書全体を理解することにおいて重要な意味があると言える。

## 2. 四福音書に登場した使徒

### (1) 各福音書ごとのまとめ

#### a. マタイの福音書10章2節～4節

- 1) ペテロと呼ばれるシモン
- 2) ペテロの兄弟アンデレ
- 3) ゼベダイの子ヤコブ
- 4) ゼベダイの子ヨハネ
- 5) ピリポ
- 6) バルトロマイ
- 7) トマス
- 8) 取税人マタイ
- 9) アルパヨの子ヤコブ
- 10) タダイ
- 11) 熱心党のシモン
- 12) イスカリオテのユダ

#### b. マルコの福音書3章16節～19節

- 1) シモン・ペテロ
- 2) ゼベダイの子ヤコブ
- 3) ゼベダイの子ヨハネ
- 4) アンデレ
- 5) ピリポ
- 6) バルトロマイ
- 7) マタイ
- 8) トマス
- 9) アルパヨの子ヤコブ
- 10) タダイ
- 11) 熱心党のシモン
- 12) イスカリオテのユダ

## c. ルカの福音書6章14節～16節

- 1) ペテロという名を与えられたシモン
- 2) ペテロの弟アンデレ
- 3) ヤコブ
- 4) ヨハネ
- 5) ピリポ
- 6) バルトロマイ
- 7) マタイ
- 8) トマス
- 9) アルパヨの子ヤコブ
- 10) 熱心党员と呼ばれていたシモン
- 11) ヤコブの子ユダ
- 12) イスカリオテのユダ

## d. ヨハネの福音書21章2節

- 1) シモン・ペテロ
- 2) デドモと呼ばれるトマス
- 3) ガリラヤのカナ出身のナタナエル
- 4) ゼベダイの子たち（ヤコブ）
- 5) ゼベダイの子たち（ヨハネ）
- 6) もう一人の弟子1
- 7) もう一人の弟子2

## (2) 使徒の名前のまとめ

各使徒の名称は、神学界でのおおむね一致した見解に従い、次のように前提する。

a. 共観福音書（マタイ・マルコ、ルカによる福音書）における「バルトロマイ」とヨハネの福音書における「ガリラヤのカナ出身のナタナエル」は同一人物とする。

b. マタイ・マルコの福音書における「タダイ」は、ルカの福音書の「ヤコブの子ユダ」と同一人物とする。

上記のような前提に従って使徒をまとめると、次のようになる。

- 1) シモン・ペテロ
- 2) ペテロの兄弟アンデレ
- 3) ゼベダイの息子ヤコブ
- 4) ゼベダイの息子ヨハネ
- 5) ピリポ
- 6) バルトロマイ (ナタナエル)
- 7) マタイ
- 8) トマス
- 9) アルパヨの子ヤコブ (以下「小ヤコブ」)
- 10) 熱心党のシモン
- 11) ヤコブの子ユダことタダイ
- 12) イスカリオテのユダ

### 3. 『BD』の登場場面と位置づけ

#### (1) 『BD』登場場面

ヨハネの福音書で『BD』が登場する場面を整理すると次のようになる。ただし、これ以外にも意図的に名前が伏せられていると考えられる場合には『BD』と同一人物とみなす（第2場面）。

#### a. 第1場面：最後の晩餐（ヨハネの福音書13章23節～25節）

“23. 弟子の一人がイエスの胸のところまで横になっていた。イエスが愛しておられた弟子である。

24. そこで、シモン・ペテロは彼に、だれのことを言われたのか尋ねるように合図した。

25. その弟子はイエスの胸元に寄りかかったまま、イエスに言った。「主よ、それはだれのことですか。」”

#### b. 第2場面：大祭司長の家の中庭（同上18章15節～18節）

“15. シモン・ペテロともう一人の弟子はイエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いだったので、イエスと一緒に大祭司の家の中庭に入ったが、

16. ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いだったもう一人の弟子が出て来て、門番の女に話し、ペテロを中に入れた。

17. すると、門番をしていた召使いの女がペテロに、「あなたも、あの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは「違う」と言った。

18. しもべたちや下役たちは、寒かったので炭火を起こし、立って暖まっていた。ペテロも彼らと一緒に立って暖まっていた。”

#### c. 第3場面：イエスの十字架のそば（同上19章25節～27節）

“25. イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。

26. イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。

27. それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。”

d. 第4場面：イエスの空の墓（同上20章1節～8節）

“1. さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。

2. それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

3. そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。

4. 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

5. そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。

6. 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。

7. イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

8. そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。”

e. 第5場面：ティベリアの湖（同上21章1節～9節）

“1. その後、イエスはティベリア湖畔で、再び弟子たちにご自分を現された。現された次第はこうであった。

2. シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、そして、ほかに二人の弟子が同じところにいた。

3. シモン・ペテロが彼らに「私は漁に行く」と言った。すると、彼らは「私たちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って、小舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。

4. 夜が明け始めていたころ、イエスは岸边に立たれた。けれども弟子たちには、イエスであることが分からなかった。

5. イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ、食べる魚がありませんね。」彼らは答えた。「ありません。」

6. イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」そこで、彼らは網を打った。すると、おびただしい数の魚のために、もはや彼らには網を引き上げることができなかった。

7. それで、イエスが愛されたあの弟子が、ペテロに「主だ」と言った。シモン・ペテロは「主だ」と聞くと、裸に近かったので上着をまとい、湖に飛び込んだ。

8. 一方、ほかの弟子たちは、魚の入った網を引いて小舟で戻って行った。陸地から遠くなく、二百ペキスほどの距離だったからである。

9. こうして彼らが陸地に上がると、そこには炭火がおこされていて、その上には魚があり、またパンがあるのが見えた。”

f. 第6場面：ペテロのうしろ（同上21章18節～23節）

“18. まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」

19. イエスは、ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示すために、こう言われたのである。こう話してから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

20. ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子がついて来るのを見た。この弟子は、夕食の席でイエスの胸元に寄りかかり、「主よ、あなたを裏切るのはだれですか」と言った者である。

21. ペテロは彼を見て、「主よ、この人はどうなのですか」とイエスに言った。

22. イエスはペテロに言われた。「わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

23. それで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスはペテロに、その弟子は死なないと言われたのではなく、「わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、

あなたに何の関わりがありますか」 と言われたのである。”

g. 第7場面：結び（同上21章24節）

“24. これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。”

(2) 『BD』 登場場面に基づく位置づけ

a. 第1場面：最後の晚餐

最後の晚餐で、裏切り者の存在についてイエスが言った時、これについての質問をペテロは本人ではなく、『BD』にするよう合図を送る。これは、ペテロ本人よりも『BD』が尋ねた方が確実な答えを得ることができると判断したためと考えられ、これをみると『BD』はイエスから信任を得ており、ペテロもそれを認めていることが分かる。

b. 第2場面：大祭司長の家の中庭

『BD』は大祭司と知り合いであり、これは大祭司の家の門番も周知の事実だった。

c. 第3場面：イエスの十字架のそば

聖書の記録によればイエスが十字架にかけられている時は、いたるところに軍人をはじめ、役人たちが多くいたと推測される。これは刑の執行を順調に進めるためと、死刑囚らの逃走または奪取など不慮の事態に備えるためであり、これにより一般人の接近は難しかったであろうと推測される。しかし、『BD』は本人だけでなく、肉の母であるマリアをはじめ、計4人の女性を率いてイエスの十字架のすぐそばまで近づくことができた。

d. 第4場面：イエスの墓

イエスの遺体が消えた空の墓を発見したマグダラのマリアはこのような重大な事実をペテロと『BD』に知らせたと聖書は記録する。これは『BD』の地位が、当時イエスに仕えていた人々にとってもペテロ程度、またはそれ以上であるという共感があったものと思われる。

e. 第5場面：ティベリアの湖

十字架の後、失意に陥った弟子たちは、ペテロと共に漁をしていた。当時はペテロをはじめとして計7人がいたが、イエスと話を交わした後弟子たちは主だということを認識することができなかった。しかし、『BD』は主について最初に知り、「主だ」という予想だにしなかった言

葉だったにもかかわらず、『BD』の一言にペテロは疑わず、この言葉を聞いてすぐに海へと飛び込んだ。

この事実からして、『BD』はイエスが繰り返し述べてきた十字架と復活に関することを信じていたため、一番先にイエスだと分かったはずであり、ペテロは『BD』の言葉に信を置いていたので、イエスがいらっしやったという驚くべき事実にも疑うことなく従ったとみられる。これは、ソドムが滅びるという事実をロットが娘婿たちに知らせたにもかかわらず、彼らは冗談のように思ったという一節と対比される（創世記19章14節参照）。

f. 第6場面：ペテロのうしろ

イエスが自分に言ったことを重荷に感じたはずのペテロは、主から信任を得ていた『BD』についても知りたがった。使徒の代表格ともいえるペテロさえも『BD』の存在感について認めていたことを示している。

g. 第7場面：結び

『BD』は単なる登場人物ではなく、ヨハネの福音書を証して記録した本人だと、聖書には記されている。この一節から推測して『BD』は証言・記録しており、これをまとめて福音書として編集したもう一つの単数または複数の人物である『私たち』を想定することができる。

「イエスが愛された弟子」という呼称は、記録者本人が自分を指す言葉として使用したと見るよりも、本証言と記録者である『BD』に対して、編集者が世の中で最も美しい名前である「イエスが愛された弟子」という名を付与したと見るのが妥当と考えられる。

#### 4. 『BD』に対する既存の主張の検討

『BD』が誰なのかについて、これまで学界では様々な主張があったが、聖書の記録を基にして、これに対する批判を試みる。

##### (1) 『BD』が女性であるとの主張の検討

第3場面によるとイエスは十字架のそばにいた『BD』を指して「息子」と言っている。したがって『BD』が女性だった可能性は排除されて当然である。

##### (2) 『BD』が十二使徒以外の人物であるとの主張の検討

第1場面から見て、『BD』は間違いなく最後の晩餐会の席にいた。この場にいた人物を聖書では次のように記す。

マタイの福音書26章20節

“夕方になって、イエスは十二人と一緒に食卓に着かれた。”

マルコの福音書14章17節

“夕方になって、イエスは十二人と一緒にそこに来られた。”

ルカの福音書22章14節

“その時刻が来て、イエスは席に着かれ、使徒たちも一緒に座った。”

従来の学界では、『BD』が『マルコ』または『ラザロ』などというの主張もあったが、上記のような記録から見て、最後の晩餐にはイエスと十二使徒だけが出席したと見るべきである。したがって、『BD』がマルコやラザロのみならず、十二使徒に含まれない人物であった可能性も排除されなければならない。

##### (3) 『BD』がペテロ又はイスカリオテのユダであるとの主張の検討

第1場面ではペテロが『BD』に合図を、第2場面と第4場面では『BD』とペテロが一緒に行動し、第5場面では『BD』がペテロに「主だ」と言い、第6場面ではペテロが『BD』についてイエスに尋ねていたため、『BD』とペテロが同一人物だとすると重大な矛盾が発生する。

一方イスカリオテのユダは、イエスが十字架にかかる前に自ら命を絶ったので（マタイ27：5）、少なくとも第3場面以降に登場することはできない。

したがって、『BD』はペテロまたはイスカリオテのユダとは言えない。

#### (4) 『BD』が使徒ヨハネであるとの主張の検討

##### a. ウェストコットの根拠

英国の神学者であり注釈家でもある ウェストコット (Westcott) は、次のような根拠でヨハネの福音書の著者を『使徒ヨハネ』だと主張する。以下は『ウィリアム・マクドナルド『新字聖書注釈』ヨハネの福音書』33頁(韓国語訳版)から一部抜粋した内容である。

1) ヨハネの福音書の著者はユダヤ人だった。記録方式や語彙、ユダヤの風習や特性に対する深い理解、そして旧約の背景がそれを強く裏付けている。

2) 彼はパレスチナに住んでいたユダヤ人だった。彼はエルサレムと宮について詳しく知っていた。

3) 彼は記録したものを直接目撃した人物だった。ヨハネの福音書には、具体的な地域や人々、時間や方法などが詳細に記されている。

4) 彼は使徒の中の一人だった。主と弟子たちの間にあった親密で詳細な話までも記されている。

5) 著者が他の弟子たちの名前は言及しながらも、自分の名前は明らかにしなかったことから、その名前が出ていない使徒ヨハネであると推定される。

## b. ウェストコットの主張における弱点

本主張には二つの弱点がある。

1) 漁師出身のヨハネと大祭司が知り合いだったと言えるだろうか。

第2場面によると、『BD』は大祭司と知り合いであり、この事実を門番の女も知っていたと書かれている（ヨハネの福音書18章15節～16節）。『BD』が使徒ヨハネだとした場合、一介の漁師であったヨハネがどうやって大祭司と知り合いになれたかについては説明がつかない。

2) 『ゼベダイの子たち』という記録をどう見るか。

ウェストコットの5番目の根拠によると、著者自身の名前を明らかにせず、ヨハネに関する記録もヨハネの福音書にないというが、使徒ヨハネが『BD』であり著者だとすれば、彼はヨハネの福音書21章2節で『ゼベダイの子たち』という記録が登場するが、これについてヨハネに関する言及がないと断定することは容易ではない。

当時、この記録の第一読者らにとっては、『ゼベダイの子たち』といえばヤコブとヨハネであることは誰もが知っていたはずであるが、にもかかわらず、具体的な名前が明示されていないという理由だけでヤコブとヨハネに関する記録がないと断定することは妥当ではないといえる。しかも単数なら二人のうち一人と見なすこともできるが、上記の一節によれば『ゼベダイの子たち』と複数で記録されているため、これは『ヤコブ』と『ヨハネ』の二人の兄弟を指すという事実を否定することはできないだろう。

## (5) 『BD』が理想的な弟子の姿であるとの主張の検討

『BD』に関する描写を検討してみる。

第1場面ではペテロが『BD』に合図を送りながらイエスへの質問を促し、第2場面では『BD』が大祭司と知り合いだったため、ペテロを連れて大祭司長の家の庭まで入ることができたという。

第4場面ではペテロとともにイエスの墓に駆けつけ、第5場面では復活

したイエスを先に発見した。

以上のような記録から考えると、このような内容からして『BD』の存在を象徴的に描写したとは考え難い。

むしろ驚くほど具体的な存在として描写しており、単純な『理想的な弟子』であるという点を強調するということを超えて、詳細な内容が盛り込まれている。したがって、『BD』が実際には存在しなかった人物を象徴的に描写したという主張は受け入れられない。

## 5. 『BD』 と他の使徒たちの登場頻度の比較

『BD』 と十二使徒の中でまだ排除されていない使徒たちが登場する位置（ヨハネの福音書の章）を見てみる。ここでは上記の検討によって排除されたペテロ、イスカリオテのユダ、そしてヨハネの福音書の21章2節に『ゼベダイの子たち』として登場したヨハネと、彼の兄弟ヤコブも除く。また、同節に名前が記されたトマス、バルトロマイ・ナタナエルも除いた六使徒について検討する。

（括弧番号はヨハネの福音書で登場する章）

- 『BD』 （登場章：計5章）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (13) 14 15 16 17 (18) (19) (20) (21)

- アンデレ （登場章：計3章）

(1) 2 3 4 5 (6) 7 8 9 10 11 (12) 13 14 15 16 17 18 19 20 21

- ピリポ （登場章：計4章）

(1) 2 3 4 5 (6) 7 8 9 10 11 (12) 13 (14) 15 16 17 18 19 20 21

- マタイ （登場章：計0章）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

- 小ヤコブ （登場章：計0章）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

- 熱心党のシモン （登場章：計0章）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

- ヤコブの息子ユダイン・ダデオ （登場章：計0枚）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

上記の検討によると、『BD』 は13章と18章以降に登場する。

アンデレは第1章、第6章、第12章に登場している。前半は名前を記録したが、後半に名前を伏せるといえるのは一貫性を欠いているといえる。

ピリポの場合は、1章、6章、12章、14章にその名前が登場するが、『BD』は13章に名前が伏せられた状態で登場する。もし、『BD』がピリポであったとすれば、12章と14章には名前が記されているが、その間の13章では名前が伏せられていたということになるので、これもまた不自然である。

したがって、アンデレとピリポは『BD』である可能性が極めて低いとされるので除外することとする。

## 6. 『BD』と推定される人物の検討

### (1) 予想人物の抽出

以上の検討により、十二使徒のうちシモン・ペテロ、ペテロの兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブ、ゼベダイの子ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ・ナタナエル、トマス、イスカリオテのユダの八人を除けば、次の四人が残る。

- マタイ
- 小ヤコブ
- 熱心党のシモン
- ヤコブの子ユダことタダイ

上記の使徒の中で筆者が注目する『BD』は『マタイ』である。

### (2) 注目の理由

『BD』が『取税人マタイ』だとする理由は次の通りである。

#### a. ウェストコットの主張にすべて符合

先に4 (4) aで述べたウェストコットの主張をもう一度見てみることにする。

- 1) ヨハネの福音書の著者はユダヤ人だった。
- 2) 彼はパレスチナに住んでいたユダヤ人だった。
- 3) 彼は彼が記録したものを自ら目撃した人だった。
- 4) 彼は使徒の一人だった。
- 5) 他の弟子たちの名前は言及しながらも、自分の名前は明らかにしなかった。

ここにマタイを当てはめてみると、彼はユダヤ人でパレスチナ地域のガリラヤ生まれである。彼は使徒だったので、イエスのすべての行いを直接目撃していた。

## b. ウェストコットの主張に対する弱点の克服

4 (4) bで検討したように、ウェストコットの主張については二つの弱点があった。しかし、『BD』がヨハネではなくマタイだったとすれば、この二つの弱点はいずれも解消できる。

## 1) 大祭司との親交があったことに対する弱点の解消

マタイの福音書にはマタイを指して『マタイ』と記録する。しかし、マルコの福音書やルカの福音書では彼を指して『マタイ』とともに『レビ』という名前を使っている。

それでは、マタイとレビが同一人物かどうかの問題となるが、各福音書の記録を比較してみることにする。

## マタイの福音書9章9節～13節

“9. イエスは、そこを去って道を通りながら、収税所にすわっているマタイという人をご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。

10. イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。

11. すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」

12. イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。

13. 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」”

## マルコの福音書2章14節～17節

“14. イエスは道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所に座っているのを見て、「わたしについて来なさい」と言われた。すると、彼は

立ち上がってイエスに従った。

15. それからイエスは、レビの家で食卓に着かれた。取税人たちや罪人たちも大勢、イエスや弟子たちとともに食卓に着いていた。大勢の人々がいて、イエスに従っていたのである。

16. パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちと一緒に食事をしているのを見て、弟子たちに言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちと一緒に食事をするのですか。」

17. これを聞いて、イエスは彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人です。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」”

#### ルカの福音書5章27節～32節

“27. その後、イエスは出て行き、収税所に座っているレビという取税人に目を留められた。そして「わたしについて来なさい」と言われた。

28. するとレビは、すべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。

29. それからレビは、自分の家でイエスのために盛大なもてなしをした。取税人たちやほかの人たちが大勢、ともに食卓に着いていた。

30. すると、パリサイ人たちや彼らのうちの律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって小声で文句を言った。「なぜあなたがたは、取税人たちや罪人たちと一緒に食べたり飲んだりするのですか。」

31. そこでイエスは彼らに答えられた。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人です。

32. わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」”

上記の聖書の句を比較すると、その内容の類似性からみると、マタイの福音書における「マタイ」とマルコ・ルカの福音書における「レビ」とが同一人物であるという点については疑いの余地がない。

当時はその親族から名前を付けたので（参考・ルカ 1：61）、レビ族以外の人物に「レビ」という名を付けたとは思えない。したがって、マタイはレビという名前も持っていたと見るべきであり、そうであれば彼は間違いなくユダヤ人のレビ族であった。

レビ族はモーセの兄弟アロンから祭祀としての職務を担っていたので、レビ族だったマタイなら大祭司と親交があったとしてもおかしくないだろう。

## 2. 「ゼベダイの子たち」として登場する点に関する弱点解消

ウェストコットは、ヨハネの福音書の著者として使徒ヨハネに注目する理由について、彼の名が登場しないという点を挙げたが、4 (4) b2ではこれに対する弱点を指摘した。

一方、ヨハネの福音書でのマタイ（レビ）に関する記録を検討する。6 (2) b1) で触れたように、共観福音のマタイ、マルコ、ルカの福音書にはマタイが使徒として召されただけでなく、彼が召されたあとに他の取税人たちと一緒に食事をしたという具体的な記録もある（マタイ9：10、マルコ2：15、ルカ5：29）。これは当時、ユダヤ人にとっては罪人の代名詞とも言える取税人をイエスが使徒として召されたという事実がどれほど印象的だったかを示す部分だと言えるが、ヨハネの福音書にはこの部分がむしろ不自然に思えるほど抜けているだけでなく、マタイに対する記録も皆無である。

### c. 追加的根拠

#### 1. 十字架に接近できた『BD』

マタイはレビ族であっただけでなく、取税人だった。取税人はユダヤ人にとっては売国奴と見なされ罪人扱いされていたが、ローマにおいては高官ではないとしても一定の地位を保障されていたに違いない。

第3場面について検討する。ゴルゴダの丘は当時、刑が執行されている刑場であり、いたるところに軍人がいた。一般的に十字架刑は死に至るまでの時間が長いので、刑の執行が完了するまで守らなければならない義務があったであろうからこれは当然である。

このような状況では一般の人々が十字架のすぐそばまで近寄ることは容易ではなかつただろう。にもかかわらず『BD』はイエスの十字架のそばにまで近づいた。それも密かに行われたものでもないことは明らかで、

それも一人でもなく四人の女性と一緒に十字架のそばまで接近することが許された（参考19：25）。このようなことが漁師出身の使徒ヨハネにできたと考えるには無理がある。しかし、大祭司と知り合いであるだけでなく、取税人としてローマの役人ともつながりのあったマタイなら、十分に可能だったと推測される。

## 2) ローマの役人だけが知っていた情報を持っていた『BD』

当時、イエスをピラトへと連行したユダヤ人は、過越の祭りを控えていたため、官邸には入らなかったと聖書には記されている（18：28）。しかし、ヨハネの福音書には、官邸内で総督ピラトとイエスとの間で交わされた内容を見ると、他の福音書に比べて詳しく記録されていることが分かる。（18：33～38、19：9～11比較 マタイ27：11～14、マルコ15：2～5、ルカ23：3～4）

このようにユダヤ人がいなかった当時の官邸内でのピラトとイエスとの間の対話を記録するためには、本人が直接その場にいなかったとしても、ローマの役人たちとのつながりを通じて情報を得なければならなかった。これが可能な使徒は聖書の記録によれば、当時取税人だったマタイだけだったと見るべきである。

## 7. 残りの疑問と仮説

### (1) 第五場面での二人の弟子問題

2 (1) dによって第五場面当時一緒にいた弟子は次の通りである。

- 1) シモン・ペテロ
- 2) デドモと呼ばれるトマス
- 3) ガリラヤのカナ出身のナタナエル
- 4) ゼベダイの子たち (ヤコブ)
- 5) ゼベダイの子たち (ヨハネ)
- 6) もう一人の弟子1
- 7) もう一人の弟子2

ペテロに主の存在を知らせた使徒が『BD』だったので彼は間違いなくその場にいたが、名前が記録されなかったので彼はきっと『もう一人の弟子1』と言えるゆえ、以上のような検討の結果『もう一人の弟子1』であり『BD』がマタイだとすれば、残りの名前が明らかになっていない『もう一人の弟子2』は誰なのかという疑問が残る。

### (2) 結びの『BD』と『私たち』の関係

ヨハネの福音書21章24節～25節

“24. これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。

25. イエスが行われたことは、ほかにもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと、私は思う。”

これは『BD』がヨハネの福音書の内容を証しし、記録した者であるとし、この証しと記録を真実だと認めている。それでは、この21章24節みると『BD』ではない『私たち』という存在の役割が疑問である。

ヨハネの福音書を初めから21章23節までは『BD』が記録し、『私たち』は単に24節～25節だけを追加したのか、または『BD』の記録と証言を基にヨハネの福音書を完成した主体が『私たち』なのか疑問が残る。

### (3) 疑問解決のための3つの仮定

本疑問の解決のために3つのことを仮定する。

a. まず7 (2) で『私たち』の主体問題については後者をとる。つまり、ヨハネの福音書は、『BD』の記録と証言に基づいて『私たち』によって完成したと仮定する。

b. 『私たち』の代表格である人物は7 (1) で『もう一人の弟子2』と同一人物であると仮定する。

c. ヨハネの福音書本文において、『BD』の正体分かる痕跡を消したのは、『BD』の要請によってであったと仮定する。

### (4) 仮定に基づく第1の仮説

上記の仮定をもとに仮説を進めると、次のようになる。

前述したように、『BD』は大祭司と知り合いであると同時に、ローマの役人とも繋がっているから彼ならではの情報があつたはずであり、これに関する証言と記録を提供してくれながら福音書完成のための助けを『私たち』に求めた。

そして同時に『BD』は『私たち』にその内容の中から自分の痕跡を消してほしいと要請する。その理由は尊敬されるべき方は自分ではなく、主であるから自分を消し、なによりも主を高めるためであった。

『私たち』は『BD』の要請どおり彼の痕跡を消した。主を高めるために自分の痕跡を消した『BD』に『私たち』は世の中で最も美しい名前である『イエスが愛された弟子』という名前を授けた。

『BD』が自分をへりくだって痕跡を消したのに『私たち』だけが痕跡を残すことはできなかつたはずだ。そのため、『私たち』も自らの名前も消した。それが『もう一人の弟子2』である。

つまり、『もう一つの弟子1』と『もう一つの弟子2』はヨハネの福音書を証言し、記録した『BD』とこれを整理して完成させた『私たち』の代表者だったと考える。

#### (5) 第1の仮説を踏まえた第2の仮説

『私たち』は誰かという問題が残る。第1の仮説によると、『私たち』もまた『BD』と一緒に第5場面になければならない。

6 (1) によると、名前の知られていない弟子は次の通りであった。

- マタイ
- 小ヤコブ
- 熱心党のシモン
- ヤコブの子ユダことタダイ

ここで『もう一人の弟子1』をマタイとすると、残りの3人が残る。

筆者は『もう一人の弟子2』であり、ヨハネの福音書を完成させた『私たち』について『熱心党のシモン』に注目する。

シモンは使徒になる前に熱心党員だった。熱心党とは、当時イスラエルを支配していたローマを民衆の力で追い出そうとする過激な思想を持っていた。たとえ彼の思想が信仰的でないとは言え、他の使徒に比べて知識人層に属していたものと推測される。

そのようなナショナリズム的な思想を持つシモンにとって、取税人マタイはいくら悔い改めて使徒になったとしても、ローマの手先であり売国奴のように思われただろう

しかしイエスは言う。

マタイの福音書5章43節～44節

“43. 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

44. しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。”

この言葉はマタイとシモンの関係を変えたのかもしれない。

シモンも使徒ではあったが、前述（4）で述べたように、取税人であったマタイは大祭司側とローマの役人側の双方に接することができたため、彼しか持っていない情報があつたに違いない。

会心したシモンはイエスの働きを記録するためにマタイの証言に耳を傾ける。あるいはマタイが先にシモンに自分の証言を記録するよう頼んだかもしれないという仮説を想定してみることもできるだろう。

## 8. 結論

筆者は以上のような検討を通じて、『BD』すなわち『イエスが愛された弟子』であり主から大きな信任を得ていた弟子、そして第5場面で登場する『ほかの二人の弟子』のうちの一人が『マタイ』であるという結論に達し、同場面の『ほかの二人の弟子』のうちの残りは『熱心党のシモン』であり、この二つによってヨハネの福音書が完成したという仮説を想定した。

ヨハネの福音書の著者については、他の共観福音と同じく著者が聖書に記録されていない状況で、この問題に関する議論は『BD』を特定する問題とともに聖書を理解することにおいて実益があるといえる。本小考が長年続いている『BD』の特定、そしてヨハネの福音書の著者を明らかにするための小さな可能性を提示するきっかけになればと思う。